

## 平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

### 1. 学校概要

学校名 木本高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒519-4323  
熊野市木本町 1101-4

E-mail : [hkimotad@hkimot.mie-c.ed.jp](mailto:hkimotad@hkimot.mie-c.ed.jp)

Website : <http://www.mie-c.ed.jp/hkimot/>

児童生徒数：男子 \_\_\_\_\_ 名 女子 \_\_\_\_\_ 名 合計 \_\_\_\_\_ 名  
 児童・生徒の年齢 \_\_\_\_\_ 15 歳～ \_\_\_\_\_ 18 歳

### 2. 担当者 ※公表しません

### 3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

## 平成 25 年度おもな取り組み

- 地域文化・歴史を学ぶ講演会
- 防災プロジェクト
- 熊野古道ガイド養成プロジェクト

(熊野古道浜街道七里御浜、松本峠、通学路の清掃活動も予定していたが、7月3日、3月18日ともに雨天により中止)

### 詳細

#### 1. 地域文化・歴史を学ぶ講演会

実施日・内容:

4月15日(月) 遠足事前学習講演会 (1年生)

「熊野古道のお話」

熊野古道語り部友の会 副会長 山口 朝さん

11月11日(月)

木本高校校歌作詞者 「詩人・作家 佐藤春夫のこと」 (2年生)

佐藤春夫記念館 館長 辻本 雄一さん

11月21日(木) 「熊野古道の魅力」 (1年生)

国際熊野学会常任委員 山本 殖生さん

11月28日(木) 「『大逆事件』と熊野の人々」 (2年生)

佐藤春夫記念館 館長 辻本 雄一さん

1月9日(木) 「熊野古道の持続可能な観光」 (1年生)

くまの体験企画代表 内山 裕紀子さん

1月23日(木) 「三つの旅」 (1年生)

熊野古道センター 所長 川端 守さん

木本高校の校歌を作詞も行った作家佐藤春夫氏について、など、熊野地域にまつわる興味深いお話しをしていただいた。生徒からは「地元でも知らない事がたくさんあった」「地元をまた調べてみたい」等、自分達の生まれ育った町について再発見の機会となったようだった。

#### 2. 防災プロジェクト

実施日 8月2日(金)

## 内容

「防災プロジェクトⅢ」ーベストを尽くすためにー

- ①避難時の保護者への引き渡し方法についての研究
- ②避難時のライフジャケットの使用についての研究
- ③日常時の上履きについての研究

参加者： 木本高等学校生徒有志・職員有志

三重県高等学校 PTA 連合牟婁地区 PTA 有志

三重大学 川口淳准教授と学生有志

三重県教育委員会 有志

熊野市職員有志

防災プロジェクトは今年で3回目となる。平成23年度より有志生徒と職員による「防災プロジェクト」を立ち上げ、三重大学の川口淳教授の指導を仰ぎ研究に着手している。今年度は「防災プロジェクトⅢーベストを尽くすためにー」というテーマのもと行われ、本校と紀南高校、尾鷲高校の牟婁地区の3校の職員とPTAの方々が参加した。川口先生の講演の後、グループに分かれてのワークショップもあり、避難時の保護者への引き渡し方法について、避難時のライフジャケットの使用について、日常時の上履きについて話し合った。参加した教員からは、「いざというときに行動するためには、統一された意識をもつこと。本校ではどうすべきか、これから考えていかなければならない」等の意見が出された。管理職の立場、教員立場、PTAの立場、生徒の立場、それぞれの学校の状況や立場から、いろいろな意見や考えを聞くことができ深くかんがえさせられるいい機会となったようだった。

## 3. 熊野古道ガイド養成プロジェクト

○第1回勉強会 (8月8日、9日)

- ・世界遺産についてのDVD学習
- ・地元の語り部さんと一緒に松本峠の踏査

○第2回勉強会 (12月19日)

- ・地元のガイドコミュニティ Kumateng さんとの意見交換会  
ワークショップを通して考える「日本・熊野の魅力とは」

14名が参加。何となく活動をこなすのではなく、目的意識を持たせる、というのがこの勉強会の狙いであった。Kumatengさんの協力のもと、地元をもう一度見つめ直し、ガイドとして何を伝えたいのか、なぜ自分達はガイドをするのかを改めて考える良い機会となった。これまで、「なんとなく活動をこなしてきた気がする」という子が「もっと地元の理解を深め、楽しみながらガイドしたい」口にしたたり、「熊野に生まれてよかった」「もっとみんなに知ってもらいたい」と、地元を誇りを持ち、それを発信したい、伝えたい、という気持ちでガイドに臨もうとする子の増加につながった。

○ガイド実践（12月26日）

- ・ 県内の他校の生徒 20 名を日本語で熊野古道ガイド

総合学科研究大会時に、県内の他校の生徒 20 名を熊野古道案内した。木本高校からは昨年からのプロジェクトに参加している 3 年生 4 名と、1 年生 1 名計 5 名がガイドとして参加した。これほどの人数をガイドするのは初めてで、生徒達も最初は少し緊張していたが、同じ高校生同士交流も深めながら、楽しんでガイドをしていた。高校生から良いフィードバックももらい、自信になったようだった。

○ガイド実践（1月11日）（三重大クリーンツアーへの参加）

- ・ 三重大学留学生を対象に英語・日本語で熊野古道ガイド

三重大学大学生、留学生を対象に英語・日本語で熊野古道ガイドを行った。木本高校生は 15 人がガイドとして参加した。スタッフも含め総勢 60 名近くとかなりの大人数だったが、役割分担し自分のパートを何度も何度も練習し本番に臨み、終わった後はとても達成感があったようだった。また、外国の方と接する機会がほとんどない地域の生徒達なので留学生との交流、他の文化や言語に触れる事もとても思い出になったと言っていた。

この古道プロジェクトを通して、将来、この地域に残る生徒達はもちろんのこと、地域外、県外、国外に出ていく生徒も、地元を誇りに持ち、自分の故郷の歴史や文化を発信したい、守っていききたい、と思えるようになってもらいたい。

このように本校では周辺地域の環境、素材、人材を活かした取組を行っている。これは地域、生徒、両方にとってプラスの効果があるのではないかと考える。中々学校全体で全てやるのは難しいが、少しずつ、たとえ少人数でも、息の長い活動になるようサポートしていきたい。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（